



## 第2回

### 「わたしとまちのかかわりについて考えよう」

日時:平成30年7月28日(土)

時間:13:00~16:30

場所:名古屋都市センター14階会議室

講師:稲葉 久之さん

(フリーランスファシリテーター)

「まちづくりを知らろう! 楽しもう!」をテーマの入門編の第2回は、「わたしとまちのかかわりについて考えよう」です。

開催当日は、台風が近づいていましたが、外の天気もなんとか晴れており、交通機関にも影響がなかったため、予定通り開催することができました。

受講生の皆さんも2回目であり、前回から2週間しかたっていないため、台風のことなどを話題にすぐに打ち解けて、今日は何を学べるのかと期待いっぱいの様子で始まりました。

### 🌱 チェックイン 🌱

講座の開始は、稲葉さんの進行の元で、チェックインを行います。講座が始まるにあたっての「いまの気持ち」を一人一言ずつ発表するところから始まりました。

- ・「いろんな人の意見が聞けるから、楽しみです」
- ・「定年からの学び直しと体験ができるこれからのことを考えるきっかけにしたいです」
- ・「前回の後、自分が色々な事に気付いて楽しいです」

などがあり、この日の講座への期待が高いことがうかがえます。



### ★講座の豆知識

チェックインとは一般的には、ホテルなどに宿泊するときを使う言葉ですが、講座では、日常から学びに入る。という気持ちの切り替えとして使っています。

また、講座の終わるときに、学びを得た後の感想や気持ちを述べ、切り替えることを、チェックアウトといいます。



## アイスブレイク

次は、グループにより円滑な話し合いを進めていくために、先輩まちづくりびとの進行で、「4つの窓」と言われる方法のアイスブレイクを行いました。

A4の紙を半分に折り、さらに折ることで「4つの記入枠」を作ります。今回そこに記入するのは・・・

- ① 自分が呼んでもらいたい名前
- ② 住んでいる所
- ③ 今日は何を食べましたか？
- ④ いま、興味のある「まち」は？

各自が記入し、自己紹介を兼ねながら見せて話すことをグループ内で行いました。

ここで、④の「いま、興味のある「まち」は？」で、なぜその街を選んだのかを話すこと、聴くことで、お互いの「まちへの興味」を知るきっかけとなって、打ち解けることができました。

場が凍り付くとも言いますが、アイスブレイクは、文字通り「アイス＝緊張」が解けることを言います。



## グループワーク:まちとの接点

宿題「身近なまちづくりの担い手を観察すること」をもとに、組織や個人が、まちに対して何をしているか、どう関わっているか？自分なりに見えたことなどを共有し、考えるワークに入りました。

まずは、付箋に書き出す作業です。付箋の上半分には担い手（行政・自治会・組織・個人）を、下半分にはどんな取組みをしているか？を記入しました。

各自が付箋に記入した内容を模造紙にまとめ、グループごとに発表してもらいました。

どのグループも、「行政」は担い手であるはずなのに付箋は少なく、「自治会」や「組織（NPO、市民団体）」は日ごろから関わることがあるためか、付箋は多く貼られていました。

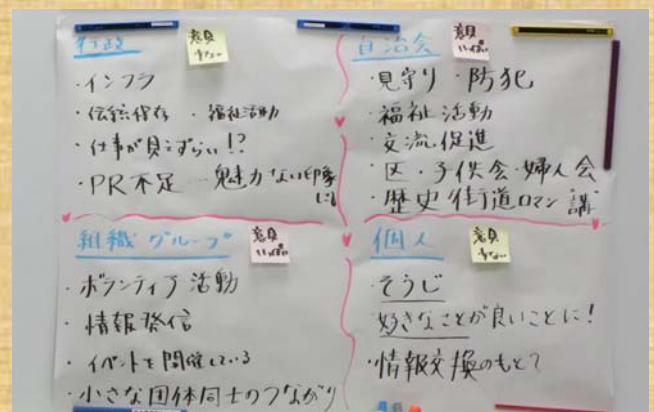
担い手であるはずの「行政」が、実は何をしているかあまり分からない、認知されていないのは、住民として知る努力をしていないこともあるが、行政側にも問題があるのではないかと、広報不足なのでは？という厳しいご意見も発表の中で出ました。

また、「個人」についての付箋も少なく、「個人がまちに何を？何をしている？」には、個人単位のボランティア活動の関わりなどがあっても、個人は組織に隠れてしまうのかもしれない。

各グループの発表では、アイスブレイクの「4つの窓」を応用して、まとめる模造紙を4分割で使っているチームもあり、また第1回目の講座よりも、うまくまとめられ発表がされていました。

### ★まちとの接点を考える・・・ まちの担い手って何？まとめ

グループの発表を聞きながら、スタッフのさとまー、しほさんが「行政」・「自治会」・「組織」・「個人」の「4つの窓」方式でまとめてくれました。





## 🌱 グループワーク②「私ができること・やりたいこと」を考える 🌱

最初のグループワークの発表後に休憩を挟み、受講生同士の交流を兼ねて、初めてのグループ替えを行いました。新しいグループでは、まずは配布されたワークシートに従って、以下の3つを考える個人ワークを行いました。

### 個人ワークで考える事

- ① 「私の想い」として、「私は〇〇ができる」と「私は〇〇をやりたい」を考えます。
- ② 次に「なぜ？」で「できること、やりたいこと」の理由（起源）をたどります。
- ③ 「なにを？」で活動を「具体化」すること。



稲葉さんからは、「自分のできる・やりたい」の自分の思いと「なぜ？ そうなのか」の思いや起源をたどることの、2つまでは時間が足りなくても頑張ってください。とエールをかけてもらいながらワークシートへの記入を行いました。

完成後はグループ内で一人10分の時間を取り、発表とその他のメンバーは傾聴と、質問することで個人の考えをより引き出すためのワークを行いました。

### 講師アドバイスその① 「インタビューの心構え」

- ① じっくりと耳を傾け、相手を理解しようとする。（傾聴する）
- ② 事実と想いを確認し、深堀する。（思いを引き出す）
- ③ 肯定的に受け止め、相手を応援する。（自他尊重）



ワークの心構えとして、インタビュー（引き出す）では、聴くに専念するはずが、親切心が仇になって、アドバイスで話の腰を折ってしまったり、発表者の時間のはずが、聴く側が自己の経験を語りだすなど、「インタビューの心構え」の遵守の難しさを体験しました。



### 講師アドバイスその② 「ファシリテーターの心構え」

- ① 現状把握のために「問いかけ」をもっと行ってください。  
「今は、どういう状態なのですか？」
- ② 相手の考えを掘り下げ引き出すには  
「どうして、そう思うのですか？」
- ③ ビジョンを明らかにするには、  
「どうなるとよいと思いますか？」

このアドバイスは、もう一つの狙いである「ファシリテーター」としての要素を聴く側に強く意識してもらい学んでもらうためでした。

発表者はインタビューを受け、考えを話すことで、自分の思いの深さを再確認し考えをまとめていきました。

活動の「具体化」にまでは到達した人はほとんどいませんでしたが、「思い」と「起源」と「具体化」の流れについて理解することで、これからの「まちづくり活動」に向けて、意識はしっかりとできたようです。



### ★私ができること/やりたいことの「見える化」

先輩まちづくりびとも、手助けでファシリテーターとしてグループに入り、質問で意見を引き出してくれました。

また、ホワイトボードにたくさんの風船を描き、グループを回るなかで聴きとった一人一人の「できること、やりたいこと」をスラスラと「見える化（ファシリテーショングラフィック）」してくれました。

## 🌱 行動目標の発表 🌱

グループワークの終了後は、これから取り組んでみたいこと、やってみたいことを、一人一人が発表を行いました。最後は、全員で所信表明ボードを持って笑顔の写真撮影で終了しました。

### みんなのまちの中で「やりたいこと・できること」一覧

- \*第4の居場所を作りたい。
- \*今後はいろんな人と関わり深める！
- \*日頃住んでいる近所の方たちとあいさつ、声かけして。
- \*「こどものまち」をやります。
- \*食と自然のつながりについて知っていききたい。
- \*むかしの伝統・風習（四季の行事含め）伝えて残していききたい！
- \*人もうまく活用したい。循環型社会の実現。
- \*人が楽しく安全に歩ける街を実現するためにできることを考え何か一つ実現する。
- \*名古屋の魅力を発掘・発信していききたい。
- \*命の見守りリレーカードづくり（個人情報情報を段階式システムでの推進。）
- \*働く世代の人を対象としたサロン・コミュニティ居酒屋、コミュニティバーを運営する。
- \*持ちつ、持たれつ。
- \*名古屋を多方面に見て、それを元に活用し貢献する。

## 🌱 クロージング 🌱



### 都市センター事務局スタッフ：ちばちゃんの感想

今回の、まちづくりびと講座（入門編）は、一人一人の「顔」と「存在」がはっきり見えた講座でした。参加人数も、20名弱で、各グループも4人ずつと少人数で開催できたことから、話し合いの中で、それぞれが自分の思いを伝えることができ、お互いに聴きあうことが十分にできる環境で開催できたと思います。

まちのことや、まちづくりを考える講座というコミュニティの中で「自分自身が居る事、自分以外の人もまちを考えていること」など同じ目的の人がいることが分かり、街の道路や建物、インフラが整備されるハードのまちづくりも重要だが、そこに住む「人」こそ、まちづくりの基本であり、自分自身も「まちづくりの担い手」だと気付くことができ、講座の目的を達成できたのではと思います。

### ★まちづくりびと講座の目的のおさらい

まちづくりに関心を持ち、積極的にまちづくり活動に取り組む担い手（まちづくりびと）を育て、地域における住民主体のまちづくり活動の輪を広げていくことを目的とします。

